

## 中部山岳地域における小型哺乳類ヤマネの生態 Ecology of Japanese dormouse in central mountainous area

門脇 正史<sup>1\*</sup>, 玉木恵理香<sup>2</sup>, 落合菜知香<sup>3</sup>, 杉山昌典<sup>4</sup>

KADOWAKI, Seishi<sup>1\*</sup>, Erika Tamaki<sup>2</sup>, Nachika Ochiai<sup>3</sup>, Masanori Sugiyama<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 筑波大学生命環境系, <sup>2</sup> 筑波大学生物資源科学, <sup>3</sup> 筑波大学生物資源学類, <sup>4</sup> 筑波大学八ヶ岳演習林

<sup>1</sup> Faculty of life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, <sup>2</sup> Agro-bioresources Science and Technology, University of Tsukuba, <sup>3</sup> Agro-biological Resource Sciences, University of Tsukuba, <sup>4</sup> Yatusgatake Forest, University of Tsukuba

ヤマネ *Glirulus japonicus* は頭胴長 68~84mm くらいの樹上性小型哺乳類で、日本固有種であり、国の天然記念物である。夜行性で冬には冬眠し、春・秋でも昼間は木の洞等で日内休眠する。本州、四国、九州および隠岐島後の森林に生息といわれる。

Web 情報によるヤマネの目撃事例を集計したところ中部地方が最も多く、中部山岳地域に多く生息する可能性がある(杉山・門脇、2010)。そこで中部山岳地域でヤマネの生態調査を行った。

2011年5月10月までに採集された糞を分析して食性を調査したところ、節足動物、果皮他(果皮およびコケ・地衣類等)、花粉、種子等に分類された。ヤマネはどの時期も節足動物と果皮他の餌を採食していた。節足動物は5月に多く、果皮他は8月以降に増加傾向にあった。また、花粉は春に出現した。この傾向は、これまで示唆されてきたヤマネの食性の季節的变化を支持するものだった(落合ほか、2011)。

ヤマネの日中の休眠場所について、小型電波発信機、アンテナと受信機を用い2010年6月~10月と2011年6月~11月に調査した。ヤマネは樹上と樹木に設置した巣箱をよく利用しており、地面の利用はほとんど見られなかった。ヤマネにより休眠場所として利用される樹木と、胸高直径、樹洞の保有率にはそれぞれ関係があり、太い木と樹洞のある木がより多く利用されていた(玉木ほか、2011)。

落合菜知香・門脇正史・玉木恵理香・杉山昌典. 2011. 糞分析によるヤマネ *Glirulus japonicus* の食性. 中部山岳地域環境変動機構 2011 年度年次研究報告発表要旨集: 121.

杉山昌典・門脇正史. 2010. Web 情報に基づくヤマネ生息分布図の作成・公開について. 筑波大学技術報告 30: 62-66.

玉木恵理香・門脇正史・落合菜知香・杉山昌典. 2011. ヤマネ *Glirulus japonicus* の休眠場所の選択. 中部山岳地域環境変動機構 2011 年度年次研究報告発表要旨集: 122.